

(報道関係各位)

1ヶ月先の消費を占う「消費意欲指数」は、
毎月25日前後に発表いたします。

2001. 09. 25

博報堂 広報室 寺島・木下

8月に調査した9月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。

2001年9月の消費意欲は、50.6点(過去最低)でした。

※93年4月以来

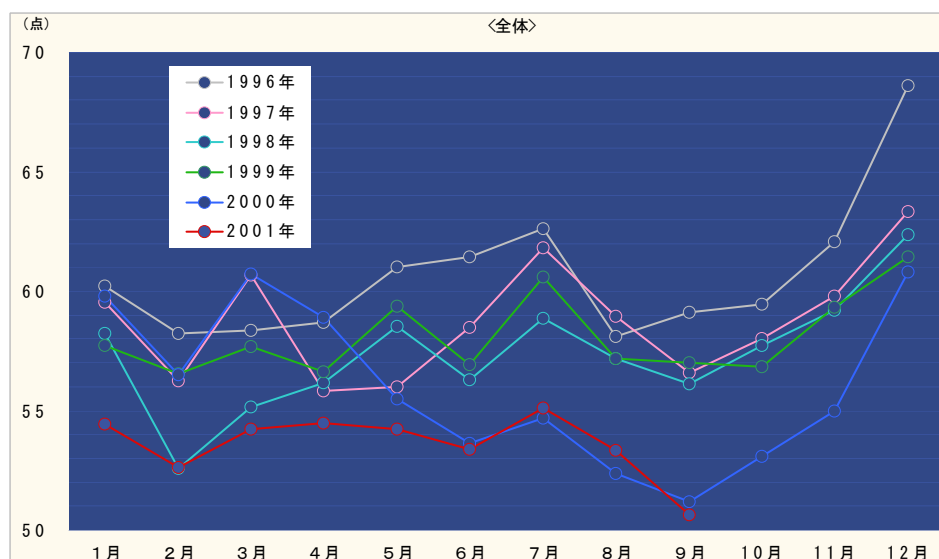
■「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

8月の時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者440名に対し「消費意欲(モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求)が最高に高まった状態を100点とするとあなたの9月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか?」と質問した結果が「9月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

■9月の消費意欲指数は、残念ながら過去最低記録を更新。

(消費意欲指数)



2001年9月の消費意欲指数は、残念ながら過去最低記録の更新をしてしまいました。これまでの最低記録は、昨年の同じく9月の51.2点でしたが、それを下まわる

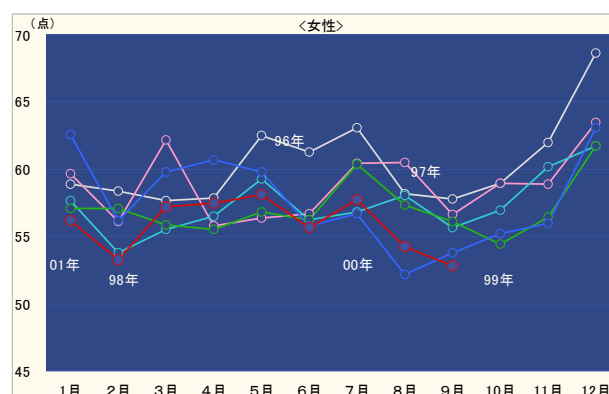
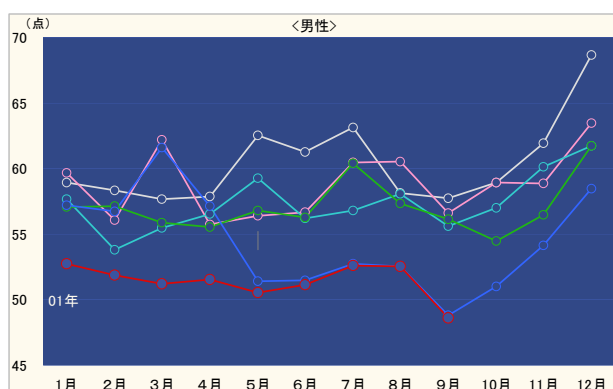
50.6点という記録です。

例年9月は、季節変動の影響で、生活者の力点が「余暇・レジャー」や「趣味・遊び」から、大きく「仕事」へとシフトするため、どうしても消費意欲が減退するのですが、昨今の株安や、進まない構造改革、そして相次ぐ官庁の不祥事などの影響で結果的に生活の元気を削ぐ形になってしまったと言えます。

■男女同時消費意欲減退

特に男性での落ち込みが激しく、調査開始以来最低の48.6点を記録。(これまでの最低は昨年9月の48.8点)。

また女性も52.8点(最低は昨年8月の52.2点)まで低下し、まさに男女同時消費意欲減退です。暑かった夏の「特需」が終わり、低め安定の微妙なバランスが崩れたと言えます。



ちなみに今回の調査時期は北米同時テロ以前(8月20日～末実施)であったのですが、日経平均1万円割れ、米国報復活動が世界経済に与える影響、米国経済の先行き不安など、マクロ状況の悪化が顕在化するとみられる来月の結果が心配です。

※博報堂生活総合研究所のHP (www.athill.com) では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要:HILL ネット調査】

調査地域: 首都圏 / 調査対象者: 18~76の男女個人 440人 / 調査方法: 郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所 (03-3233-6450) までお願いいたします。